

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人
印刷所：S R S 株式会社
定 価：一部 30 円

2012年 8 月 20 日
第 352 号

「現在進行形」

法人本部事務局長 池谷 慎人

先日、法人内のある事業所の職員(20代)と世間話をしていた時、突然面と向かって「池谷さんの趣味は何ですか?」と質問してきたのですが、即答(答えるのに5秒要した)できなかった自分に対し苦笑してしまいました。

改めて考えてみると、若い頃(今でも若いと思われているが)は、下手の横好きと言われる程、その時の流行を意識しながら、特にスポーツ(主に球技)に手を出し、色々な意味で「たいへん」ではありましたが、楽しんでいたのであると思います。残念なことに、現在も趣味として継続的に楽しんでおこなっているものが少ないため、すぐ頭に浮かばず職員の質問にも即答できなかったのだと思います。

仕事・学問・運動など、何にしても【楽しい】【辛い・苦しい】所謂「たいへん」なことは多々あります。「たいへん」が現在とすれば、「たいへんだった」が過去、「たいへんだろう」が未来と言えます。「たいへんだった」は、過去の結果として、楽しく話をすることもできます。「たいへんだろう」は、未来のこととして自分の考え方、捉え方ひとつで楽しそうにもなるし、辛く・苦しそうにもなります。

「たいへん」は、現在の自分の気持ちの表現であり、まさに現在進行形です。更に、その時の自分自身の精神状態によって気持ちは左右され、その結果、モチベーションなども上がったたり下がったりします。

一週間ほど前までロンドンで夏季のオリンピックが開かれていました。今回の日本人選手の成績は、金7・銀14・銅17の合計38個のメダルを獲得し、アテネ大会の37個を超えて史上最多の獲得数となり、金メダルの数はさておき、この結果については、日本国内でも称賛されていました。メダルを獲得した殆どの選手が「感謝」を口にし「楽しめた」ことを強調していただくことが私自身の印象として残っています。四年に一度のオリンピックという檜舞台で国の威信を懸け日本代表という重圧を背負って戦うわけですから「たいへん」なのは当然であり、辛く・苦しいはずですが、しかし、これまでの「たいへんだった」練習の成果をオリンピックとこの瞬間を「たいへんだけれども楽しむ」という気持ちで選手自身にあったからこそ、好結果に繋がっていったのではないのでしょうか。

このことは、私たちの仕事にも置き換えられることだと思います。「たいへん」でも楽しいと思うと持続性が保たれ気持ちは晴れやかに前向きになり、利用者の方にとってもよりよい支援が

成されていくはずですが。反面、「たいへん」を辛い・苦しいとばかりに思ってしまうと気持ちも沈み、消極的になり、嫌気が差し長続きしません。

現在、小羊学園が抱えているいくつかの事業計画の中で最も大きな課題とされているのは、浜松市浜北区にある障害者支援施設「支援センターわかぎ」の整備計画です。定員40名の大きな施設の建て直し計画ですので、金額的にも非常に大きく、仮住まいなどでも必要であり、私自身の立場から考えてみても、とても「たいへん」なことです。しかし、この「たいへん」なことも利用者の方たちのこと、職員たちのこと、地域の方たちのこと等と捉えていくと何となく楽しみに繋がっていくように「たいへんだけれども楽しむ」という気持ちになり、恐縮ながらも前述のメダリストたちと何となく似ているのかなと思ったりします。この整備計画もだいぶ具体化されつつあり、方向性も見えてきており、まもなく皆様にもお話しできることになると思いますので、楽しみにお待ちしております。

ある精神科医によると、中年(40~50代)の男性に「趣味は?」と尋ね、答えが「仕事」「お酒」「タバコ」と返ってくる人は要注意人物だそうです。私自身も「たいへん」でも楽しめる現在進行形を目指し、冒頭の職員の質問に対しても、決して「仕事」や「お酒」と答えないようにしていきます。

地域生活を支える相談支援事業所

～実践とそこから見える地域課題～

地域で生活する中で、サービス利用や各種申請など様々なお困りごとを受けて、関係機関に繋ぐコーディネート役として大きな役割である相談支援。今回は、法人内の相談支援事業所に現状を報告してもらいました。

相談業務の中で変わらないもの

アグネス 本宮 早奈映



アグネスは浜松市中区にあり、同法人の事業所「在宅支援センターぱびるす」の中

事に事務所があります。相談員としては、2名体制で対応しています。

「在宅支援センターぱびるす」では、児童発達支援事業と放課後等デイサービスを行っている為、毎日子ども達の元気な声が響いています。

相談の実績と傾向

アグネスでは、子どもの（知的障がい児・発達障がい児・重症心身障がい児）相談が多いことが特徴です。

実際の実績としては、平成23年度は239名の相談（3329件）があり、内訳として163名（2088件）が子どもの相談、76名（1241件）が大人の相談でした。

地域としては、事務所所在区である中区在住の方の相談が多いですが、浜松市内・市外・県外から幅広いエリアからの相談があります。連携させていただいて

いる関係機関としては、行政・福祉サービス事業所・学校・医療機関・介護保険関係の事業所・民生委員の皆さま等々、相談員だけでは支えきれない状況を協力し合いながら日々の相談を受けさせていただいています。

具体的な相談内容

相談の内容としては、子どもも大人も、福祉サービス利用に関する相談が多くなっています。

子どもの相談では進路に関する相談（保育・教育機関と連携しながら）・放課後や長期休みの過ごし方に関する相談・子どもの成長とともに、家庭内での対応が困難になり、家庭内での調整や、家庭以外で過ごす場所の確保が必要なケースの相談等があります。

大人の相談では、働くことや、日中活動に関する相談・独り暮らしを継続する為の相談・高齢者と障がい者のみ世帯の相談・親亡き後の生活に向けてグループホーム／ケアホーム利用に関する相談・施設入所に関する相談等があります。

アグネスの役割

日常の相談業務以外には、浜松市内

各区に設置されている自立支援連絡会（アグネスは中区・北区を担当しています）の事務局を担い、自立支援連絡会の運営に携わったり、浜松市内の相談支援事業所の連絡会に参加したり、依頼に応じて学校や育成会等の研修を引き受けさせていただいたりしています。

また、今年度からは福祉サービス利用計画の作成もスタートしました。

現地点で浜松市が見込んだ今年度計画作成対象者数を大幅に超えているのが現状です。アグネスにも毎月新たな計画相談が入ってきています。

相談を受けて願うこと

私自身、小羊学園児童寮に就職後、3年後にアグネスに異動、相談員として働くようになり、あっという間に5年間が経ちました。

この5年間でも、法律や制度が目まぐるしく変化していく中、相談内容や相談員としての動きには変わらないものがあると感じています。限られたスタッフ数で、増え続ける相談者の人数や件数。中々電話が繋がらず、ご迷惑をおかけしてしまつことも多々あります。

しかし、どんな相談内容でも困った時にアグネスへ連絡をしてくださることに感謝し、相談者やご家族と最初から最後まで一緒に考え、寄り添う支援をしたという想いを大切にしていきたいと思えます。

人生の一場面に関わらせて頂く

アグネスみなみ 高橋 怜子



アグネスみなみは南区役所の隣にあるアンサンブル江之島の1階に事務所を設けて

います。アンサンブル江之島は平成17年4月に、旧「サンビーチ浜松」の建物を利用し、市民、行政、民間の福祉サービス事業者の協働を目指してオープン致しました。アグネスみなみは政令指定都市になった平成19年4月より相談支援事業を開始しています。

相談から見える地域の実情

相談支援事業所は浜松市から委託を受け、3障がい対象の相談を受けています。身体障がいの方、精神障がいの方の相談もありますが、数値的には知的障がい児者の家族、当事者からの相談が多いのが現状です。それは、小羊学園が知的障がいの方を主に運営してきた法人だからということもあるかと思われま

す。昨年度の相談支援内容が最も多かったのは、福祉サービス利用に関する相談でした。次いで家族関係・人間関係に関する相談が多くなっています。在宅生活を家族と一緒に送っている方が多いため、ご家庭の状況によって福祉サービスの利用が必要になることがあります。また、当事者を含め家族全体に支援が必要になることもあります。3番目に多かったの

は健康・医療に関する相談です。健康面で課題がある方の場合、医療機関との連携が必要になってきます。

相談者の方と一緒に悩みながら課題を整理し、課題解決のために、福祉サービス利用が必要であったり、他の関係機関の紹介が必要であったり方法は様々です。地域で暮らすためのお手伝い役・関係機関との繋ぎ役として相談員は動いています。相談者の方の人生の一場面に、ほんの少し関わらせて頂くといった形ではないかと思っています。

計画相談のスタート

この4月から計画相談支援が始まり、新規で福祉サービス利用をする方については、サービス等利用計画の作成が義務付けられました。ケースワークは今までも行っていた事ですが、より具体的に形が作られ、細かな計画作成と相談支援が入ることになりました。アグネスみなみにも計画相談の依頼が入り、初めてお会いする利用者様のニーズを聞き取り、サービス等利用計画の作成を行っています。隣が南区役所という立地条件もあるのか、今まで相談件数としては少なかった精神障がいの方からの相談依頼が多くあります。障がい特性に 囚われず、よりよいサービス提供ができるように心がけています。そのためには、こちらも勉強が必要です。また、利用者様との関わりの中で学ぶことが多い日々と思います。

自立支援連絡会

南区障害者自立支援連絡会においては、南区にある相談支援事業所「はまかせ」と南区役所社会福祉課、健康づくり課が事務局となり運営をしています。南区内にある福祉サービス事業所、教育機関、児童民生委員、地区社協、障害者相談員の方々との横の繋がりを作っていき、困り事があたらお互いに話し合える関係づくりをしています。今年度からは部会も立ち上げ、より活発な活動になるのではないかと期待しています。

重症心身障害児者の在宅支援

アグネス静岡 北尾 会津



アグネス静岡は、静岡市にある重症心身障害児施設「つばさ静岡」内に事務所があります。「つばさ静岡」には、入所事業として療養介護と医療型障害児入所、在宅支援事業として短期入所と重症心身障害児者通園事業から移行した生活介護事業所「わたぐも」と児童発達支援事業「たんぼぼ」があります。それぞれの利用者や家族と顔を合わせる機会も多く、相談員という立場で近況等をここで聞かせていただくこともあります。

相談の実績

昨年度の実績は、相談者数は2770人、相談件数は998件でした。年齢は、0歳から50代後半の方まで幅広く、

児童・成人の割合は半々でしたが、初回相談の年齢が年々低くなっています。地域は、静岡市内が最も多く半数以上を占めています。県内の広い範囲からの相談も多くあります。利用者の殆どは、重症心身障害児者（以下、重症児者と記す）と呼ばれる知的・身体共に重い障がいをお持ちの方たちで、これがアグネス静岡の最も大きな特徴であり、期待されている役割だと認識しています。

重症児者家族からの相談と支援の現状

相談の内容として、福祉サービスの利用に関する相談が最も多くありました。重症児者の半数は、日常的な医療的ケアが必要です。また、医療的ケアがない方でも、肌理細やかな介護が求められます。重症児者への対応が可能な社会資源（訪問系、日中活動系など）の少ない中、本人は勿論、家族のニーズにマッチングする福祉サービスを導入していく難しさを強く感じます。

福祉サービスが利用出来ず、家族（多くは母親）の頑張りでの在宅生活を続けている重症児者は沢山います。在宅の重症児者の暮らしは、家族介護で成り立っているのが現状です。そしてその家族の多くは『この子と、在宅での暮らしを一日でも長く続けたい』という願いを持ち続けています。

静岡地区在宅重症児者ネットワーク

一昨年のことでした。特別支援学校

高等部卒業予定のお子さんの進路先検討会を開催しました。それまで、学校と事業所のやり取りで進路は決まっていたが、この前年度、卒業時に進路が決まらず家にこもりきりになってしまったという事実がありました。重症児者の在宅支援機関として『同じ轍を踏む』ことがあってはならない」と関係機関に参加を呼びかけました。行政、学校、日中活動系事業所、相談支援事業所など多数の機関が一同に会し、卒業生の進路先についての議論を複数回行いました。結果、重症児と呼ばれる卒業生全員の進路が確保されました。

この集まりは現在、全県で地域ごとに動き出している「在宅重症児者支援ネットワーク」の静岡市版、「静岡地区在宅重症児者支援ネットワーク」と名前を変え、支援機関や事業所間の情報共有や今後の課題などを話し合う場となっています。ここには、重症児者の在宅支援に不可欠と言える、病院の相談室や訪問看護ステーションなどの医療関係機関も加わりました。

このネットワークが、在宅重症児者の暮らしを支えるために果たす役割は、大変重要だと考えます。私もネットワークの一員です。重症児者と呼ばれる方たちの想いをくみ取ることはとても難しいことですが、利用者一人ひとりの意思に寄り添うことが相談の第一歩。ご家族と共に、重症児者の在宅での暮らしを支え続けていきます。

夏の夜を涼みました

梅雨が明けると同時に、猛暑日が続き、今年も暑い夏になりました。暑い夏に地域の皆さまと楽しいひとときを過ごしたいと願い、各事業所で夏祭りやイベントが開催されました。

❖ わかぎ夏祭り

7月28日(土)連日の猛暑は少し和らぎましたが、夕方になっても蒸し暑さが残る中、夏祭りが行われました。当日は、利用者・ご家族・旧職員・地域の皆さまなど、250名前後の人で賑わいました。

長年、指揮を執ってくださる末広先生の太鼓に合わせ、「浜北音頭」の盆踊りからスタートしました。

模擬店では、やきそば・たこやき・フライドポテト・かき氷が無料で振舞われ、各店舗に長蛇の列ができました。日も暮れ、辺りが薄暗くなり始め、提灯の柔らかな灯火と華やかな光を放つ花火を堪能し、夏の夜をみんなで満喫しました。



❖ スクエア夏祭り

8月10日(金)毎年恒例となっている三方原スクエア夏祭りが開催されました。まず第1部は例年通り正面駐車場を会場に、流しそうめん・焼きそば・綿菓子・フランクフルト・かき氷などの模擬店や、ゲーム・新職員の音楽ステージ・ビンゴ大会など、利用者や職員・保護者や聖隷クリストファー大学・浜松大学の学生ボランティアさんも一緒にみんなで賑やかに行われました。そして何と言っても今年の目玉は第2部の花火大会！以前の小羊学園では毎回ナイアガラなどの花火を行っていましたが、三方原スクエアに移転してからは会場の広さの都合で行えていませんでした。しかし是非また花火大会を

まだまだイベントは続きます！

つばさ静岡 夏祭り

日時 9月8日(土) 17:00～
 ところ つばさ静岡 中庭
 静岡市葵区城北117
 イベント 模擬店・フラダンス
 ベリーダンス・火舞 など
 駐車場 担当職員がご案内します

■ 問い合わせ
 つばさ静岡 ☎ 054-249-2830

第2回 オリーブ祭り

日時 9月15日(土) 10:30～
 ところ オリーブの樹
 浜松市浜北区尾野 462-2
 イベント 模擬店
 (焼きそば・フランク・ジュース)
 ゲーム・和太鼓・舞踊・民族音楽
 フリーマーケット・バザー

■ 問い合わせ
 オリーブの樹 ☎ 053-582-3415



復活させたいとの思いから準備を進め、近くの清水公園をお借りして手持ち花火・ナイアガラ・打ち上げ花火など盛大に行うことができました。近隣にお住まいの方々も見に来て下さり、楽しいひと時となりました。

編集後記

スポーツの祭典ロンドンオリンピックが閉幕した。過去最高のメダルの獲得数だった今大会であったが、特にチームやリレーでのメダル獲得が日本に元氣・勇気を与えてくれた。競技後のインタビューで選手たちが「この仲間たちと」「チーム全員がいたからこそ」と選手やスタッフ、そして応援していた家族や国民への感謝の念を言葉にされたことが心に響く。

絆を大切に勝ち取った栄冠。福祉の現場でも、利用者同士・家族・職員・地域の皆さまが強い絆で結ばれることを願いたい。

まだまだ残暑厳しい折です。夏の疲れを残さぬよう、どうぞお身体ご自愛下さい。(F)

小羊学園を支える会

2012年度寄付金報告

7月受付分	700,000円 (31件)
累計	1,685,051円 (114件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
 三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833